

科目名	アプリケーション開発演習A								
科目名(英)									
単位数	9単位	時間数	140時間	担当者	西野 直幸・姫野 マリ				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社においてプログラマーとして勤務				
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科1年 アドバンスコース								
授業概要	JSP/Javaサーブレットによるデータベース連携のWebアプリケーション開発技術を習得する。 開発ツールとしてEclipseを利用する。								
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○					Webアプリケーションについての用語を説明できる。			
		○				Webアプリケーションのフォルダ構成を理解できる。			
		○				サーブレットを理解して、JSP・DBと連携したWebアプリケーションを作成することが出来る。			
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1~3	Javaの復習(基本構文)				AZ-Cafeを用いた演習課題を終わらせること			
	4~6	HTML基本構文							
	7, 8	ここまでの演習				HTMLを使った演習課題を提出すること			
	9~11	Webの仕組み、演習				演習課題を提出すること			
	12~14	JSPの仕組み、演習				演習課題を提出すること			
	15~17	フォームを使った画面遷移、データ受け渡し				確認テストの勉強を行っておくこと			
	18	確認テスト ここまでの内容の確認テスト							
	19~22	サーブレット基礎1:サーブレットの基礎(記述方法、画面遷移)				確認テストの勉強を行っておくこと			
	23	サーブレット基礎1の確認テスト							
	24~26	サーブレット基礎2:データ受け渡し、GET、POSTの違い							
	27~30	サーブレット基礎3:スコープ							
	31~33	サーブレット基礎1、2、3の内容で演習課題				演習課題を提出すること			
	34~37	MVCモデル:演習をやりながらMVCモデルを学ぶ							
	38~41	MVCモデルを用いた総合演習(ログイン、ログアウト)							
	42~44	JDBC1:JDBCの説明							
	45~48	JDBC2:prepareStatementを用いた演習				演習課題を提出すること			
	49~51	JDBC3:DAOパターン							
	52~55	JDBC4:コネクションプール				確認テストの勉強を行っておくこと			
	56	MVCモデル、JDBC部分の確認テスト							
57~67	前期最終課題作成				演習課題を提出すること				
68~70	課題審査、結果発表、予備				演習課題を提出すること				
評価方法	(1)プログラミング課題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)確認テストを3回実施する(4)授業の出席状況・授業態度を考慮する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	プログラミング課題		◎				20%		
	定期試験	○	◎				40%		
	確認テスト	○	◎				20%		
出席状況・授業態度				◎		20%			
履修上の注意	出席が47回(全70回)に満たない場合は単位認定できない。								

科目名	ネットワークセキュリティⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	姫野 マリ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年						
授業概要	情報セキュリティについて全ての分野の基礎レベルの知識を習得する。知識習得の目安としては以下を目安とする。 ・ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできる。 ・またそれぞれの項目での問題点と対処方法を簡単に説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。	
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。	
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	情報セキュリティ技術認定 基礎コース(SEA/J)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 情報セキュリティマネジメント					
	2	第2章 セキュリティ運用					
	3	第3章 インフラセキュリティ				第1章～第3章までの授業内容に係るレポート作成	
	4	第1～3章までの確認テスト				第1章～第3章までの用語テストで間違えた専門用語は覚えなおししておくこと	
	5	第4章 不正アクセス					
	6	第5章 ファイアウォール 第6章 侵入検知					
	7	第7章 アプリケーションセキュリティ				第4章～第7章までの授業内容に係るレポート作成	
	8	第4～7章までの確認テスト				第4章～第7章までの用語テストで間違えた専門用語は覚えなおししておくこと	
	9	第9章 認証					
	10	第12章 暗号(暗号の基礎知識)					
	11	第12章 暗号(共通鍵暗号・公開鍵暗号)					
	12	第13章 電子署名				第9章、第12章、第13章の授業内容に係るレポート作成	
	13	第9～13章までの確認テスト				第9章～第13章までの用語テストで間違えた専門用語は覚えなおししておくこと	
	14	総復習					
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)専門用語テストを数回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)授業態度、出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	用語テスト	◎					10%
	宿題・レポート		◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	システム設計A						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	姫野 マリ・今村 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	システム開発業務やシステムエンジニアの仕事についての調査・研究を行なうとともに、システム設計における基礎レベルの知識を習得する。知識を活用した演習を通じて、各種設計書を読み・書くことができることを目指す。最終的には与えられた要件定義書から画面設計書とデータモデル設計書を作成し、データベースの実装演習を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					IT業界におけるシステム設計・開発の仕事について研究・調査し、調査結果を発表できる。	
	○					システム設計の工程と成果物について学習し、設計書に記載する内容と意味を説明できる。	
	○					簡単なシステム要件から業務フロー、画面フロー、画面イメージ、データモデルを作成できる。	
	○					出来上がったプログラムを元に機能やモジュールの構造を理解し、機能仕様書を作成できる。	
○					システムの要件定義書を読み、画面設計書とデータモデル設計書を作成することができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	データモデリング演習			E-Rモデル図の知識確認テストを行なうので、事前に学習しておくこと		
	4-6	設計基礎演習1(画面設計、テーブル設計)			学んだことを生かして、課題の画面設計書とテーブル設計書を作成させること		
	7-9	設計基礎演習2(業務フロー、画面設計、テーブル設計)					
	10-12	設計基礎演習2(業務フロー、画面設計、テーブル設計)			学んだことを生かして、課題の業務フロー、画面設計書、テーブル設計書を作成させること		
	13-15	設計基礎演習3(業務フロー、画面設計、テーブル設計)					
	16-18	設計基礎演習3(業務フロー、画面設計、テーブル設計)			学んだことを生かして、課題の業務フロー、画面設計書、テーブル設計書を作成させること		
	19-21	IT業界 システム開発の現場を調査・研究・発表する					
	22-24	データベース環境設定					
	25-27	データベース実装演習			E-Rモデル図とテーブル設計書よりテーブル実装の確認テストを行うので、事前に学習しておくこと		
	28-30	設計応用演習(要件定義からの画面・データ・機能の設計)					
	31-33	設計応用演習(要件定義からの画面・データ・機能の設計)			学んだことを生かして、課題の設計書を作成させておくこと		
	34-36	テスト及びバグ報告書作成					
	37-39	機能設計(MVCモデルによるモジュール構成図作成)					
40-42	機能設計(MVCモデルによるモジュール構成図作成)						
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。(3)授業態度、出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出	○	◎				60%
	確認テスト		◎				20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が28回(全42回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	情報処理試験春期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	UIデザイン演習A						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	56時間	担当者	中西 紘子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	Web開発で必要となるHTML・CSSの基礎を習得する。基本的なページを作成するためのタグ、Web開発で重要なフォーム系のタグ、マルチデバイスを考慮したレイアウト、ライブラリを使用し効率的なWebページの作成を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
		○		○		HTMLで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。	
		○		○		スタイルシートで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。	
		○		○		基本的なWebページを作成することができる。	
		○		○		UIを意識したWebページを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	HTML5 & CSS3レッスンブック(ソシム株式会社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	Webページの構造について、作業環境の構築			2回目開始前までにHTML・CSSを作成できる環境(エディタ)を準備しておくこと		
	3	Webページのレイアウトについて(header・footer)					
	4	色の設定、透過					
	5-6	余白の設定、枠線					
	7	テーブルデザイン			教科書CHAPTER6のテーブルの部分を目を通しておくこと		
	8	フォームの作成			教科書CHAPTER6のフォームの部分を目を通しておくこと		
	9-10	Webフォント・画像の表示			絶対パスと相対パスしくみを理解しておくこと		
	11	CSSのclassの使用方法					
	12	画像の配置					
	13-14	リンクについて、ナビゲーションメニューの作成					
	15-16	記事一覧ページ・トップページ作成					
	17-18	Bootstrapを使ったレイアウト					
	19-26	制作			必ず制作物のバックアップはとっておくこと		
	27	実際のWebページ制作の工程					
評価方法	(1)授業の中で内容に合わせた課題の提出を15回程度実施する。(2)定期試験に代わる最終課題を実施する。(3)出席回数を評価する。(4)授業態度の注意が多い学生に対し、減点評価を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期課題		◎		○		40%
	最終課題		◎		○		40%
	出席				◎		5%
	授業態度				◎		15%
履修上の注意	パソコン、教科書は必ず持参のこと。課題に関しては担当教員が在学時間中に作成途中であっても提出すること。しかし提出されたものが最低基準にも満たさない場合は大幅な減点を行う。 また課題は常にバックアップをとること。データの消失による期限の延期は認めない。						

科目名	一般教養ⅡA									
科目名(英)										
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	畠添 正和					
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年									
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:前期は、計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。⇒ 求めた答えと一致する「選択枝」を選択する。 SPIテキスト(非言語分野)の未消化分は、後期に継続して行う。 (2)言語分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。									
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる				
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	就職筆記試験について 数学分野(1回目)								
	2	数学分野(2回目)								
	3	SPIテキストの構成・内容の確認、国語1(二語の関係①) テキストの数学1の内容確認・練習問題								
	4	国語2(二語の関係②) 数学分野(3回目)	上期 数学分野の進行順序 数学1. 仕事算 数学1-1. 水槽算 数学2. 鶴亀算 数学2-1. 連立方程式の練習問題 数学 その他1. 濃度算 数学3. 損益算 数学4. 速さ・時間・距離 数学4-1. 通過算 数学4-2. 流水算 数学19. 参考問題 その他2. 年齢算 数学5. 場合の数 数学6. 確率 (数学7~18は、後期に実施します)							
	5	国語3(文法) 数学分野(4回目)				中間テスト範囲の復習をしておくこと				
	6	国語4(語句の意味) 数学分野(5回目)								
	7	中間テスト(数学1. ~ 数学4-2)								
	8	中間テスト 返却&解説 国語5(短文の穴埋め)、数学分野(6回目)				中間テストで間違えた問題の復習をしておくこと				
	9	国語6(文章整序) 数学分野(7回目)								
	10	国語7(空欄補充) 数学分野(8回目)								
	11	国語8(長文読解)、国語9(参考問題) 数学分野(9回目)								
	12	数学分野(10回目)								
	13	数学分野(11回目)				これまで学んだ範囲を復習しておくこと				
	14	数学分野(12回目) 期末テスト対策				期末テスト対策で整理した内容を復習しておくこと				
15										
評価方法	(1)授業の中で小テスト(中間テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)授業態度・出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報				知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎				◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%			
	出席状況・授業態度				◎		20%			
履修上の注意										

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	今村 美穂 ・ 西野 直幸		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ・未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを理解することができる。	
		○				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
		○				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
		○				行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	麻生情報ビジネス専門学校 グローバルシティズンベーシックII 志の教育						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート	
	3	自己を知る				振り返りレポート	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる				振り返りレポート	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート	
	8	GCB IIを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポート	
評価方法	(1)レポートを数回実施する (2)授業態度 (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	出席が6回(全8回)に満たない場合、または、レポートがすべて提出されていない場合は単位認定できない。						

科目名	就職実務 I A								
科目名(英)									
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	今村 美穂・西野 直幸				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年								
授業概要	次年度就職に向けて、スムーズな就職活動ができるように前期の準備を行う。 業界研究や職種研究を通じて、将来の働くイメージを具体的に描いていく。 企業研究の方法を知り、受験したい企業を選択する。 履歴書(業界・職種志望理由、自己PR他)を作成する。								
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="checkbox"/>	実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="checkbox"/>
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	<input type="radio"/>					IT業界の特徴を説明できる。			
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				業界と職種の志望理由を述べることができる。			
		<input type="radio"/>				就職採用試験に提出する履歴書が準備できる。			
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル)								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	就職の目的 / 働くこと、社会人基礎力の理解							
	2	業界研究1							
	3	業界研究2							
	4	業界研究3							
	5	業界研究4							
	6	職種研究							
	7	東京研修 事前研究				東京研修で訪問する企業について調べてレポートを作成すること			
	8	東京研修 事後研究				「東京研修の訪問企業」の講義内容についてレポートを作成すること			
	9	業界・職種志望動機まとめ1							
	10	業界・職種志望動機まとめ2				「業界の志望動機」「職種の志望動機」のレポートを作成すること			
	11	企業研究1							
	12	企業研究2							
	13	履歴書作成1							
	14	履歴書作成2				「履歴書の下書き」についてのレポートを作成すること			
評価方法	(1)レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	レポート課題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				80%		
	出席状況・授業態度				<input type="radio"/>		20%		
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。								

科目名	ビジネスソフトウェア演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	瑠璃垣 孝一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年、情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	Wordを使用して、実務に利用できるビジネス文書や、表現力をアップする機能を使った文書(チラシ・POP等)が作成できるようになることを目指す。 また、PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的なスライド作成や資料作成ができるようになることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Wordを用いてビジネス文書(社外文書、社内文書)を作成できる。	
		○				Wordのグラフィック機能を用いてチラシやPOPを作成できる。	
	○	○				PowerPointを用いて効果的な機能を使い発表用のスライドを作成できる。	
		○				PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 Wordの基礎知識 第2章① 文書の新規作成				第1章・第2章をよく読んでおくこと。	
	2	第2章② ビジネス文書の作成					
	3	第3章 グラフィック機能の利用				第3章を良く読んでおくこと。	
	4	第4章 表の作成 第13章① Word・Excel間のデータ共有				第4章をよく読んでおくこと。	
	5	補足 長文の作成					
	6	補足 長文の作成での便利な機能					
	7	Word総合演習					
	8	Word実技試験 第10章 PowerPointの基礎知識					
	9	第11章 ①プレゼンテーションの新規作成				第11章をよく読んでおくこと。	
	10	第11章 ②視覚的コンテンツの利用					
	11	第12章① スライドショーの実行				第12章をよく読んでおくこと。	
	12	第12章② アニメーションと画面切り替え効果					
	13	第13章② Word・PowerPoint間のデータ共有				第13章をよく読んでおくこと。	
	14	PowerPoint実技試験					
15							
評価方法	(1)Word・PowerPointの実技試験を実施する。(2)授業の中で課題を作成する。(3)出席回数、授業態度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験	◎	◎				60%
	課題作成		◎				20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	課題は毎回忘れずに提出すること。 出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	情報処理試験春期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	機械学習に利用される基本技術を学び、入門用の実践環境の利用方法を学ぶ。 機械学習の代表的なアルゴリズムの基本を実践する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				機械学習に利用される数学の初歩知識が説明できる	
		○				機械学習に利用されるPython言語の基本文法を使用できる	
		○				機械学習の主要なアルゴリズムを説明できる	
テキスト・教材 参考図書	いちばんやさしい ディープラーニング 入門教室 ソーテック社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習				Google アカウントを準備しておくこと	
	2	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法					
	3	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法					
	4	■Chapter2 Pythonの準備と基本文法					
	5	■Chapter3 ディープラーニングの体験					
	6	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習(機械学習の歴史)					
	7	■Chapter1 ディープラーニングと機械学習(基本数学)					
	8	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本					
	9	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本					
	10	■Chapter4 ニューラルネットワークの基本					
	11	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク					
	12	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク					
	13	■Chapter5 畳み込みニューラルネットワーク				これまで学んだ用語を整理しておくこと	
14	整理ノート作成						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	モバイルアプリケーション開発演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイルアプリ開発入門での基礎知識を応用し、異なる仕組みでのアプリケーション開発手法を習得する ・すでに学んだ技術を応用し、モバイルアプリケーションを開発する ・コンテスト出展等により、外部公開を目的とする 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				モバイルアプリケーション開発の授業で学んだ基礎技術を実践する	
		○				モバイルアプリケーション開発の応用技術を習得する	
テキスト・教材 参考図書	React Native + Expoではじめるスマホアプリ開発 JavaScriptによるアプリ構築の実際 マイナビ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～3	第1章 React Nativeとは React NativeとExpo/CRNAIについて把握 個人開発アプリ企画立案					
	4～6	第2章 開発環境の構築 第3章エミュレータ/シミュレータによる確認 個人開発アプリ企画立案					
	7～9	第4章 TODOアプリで学ぶ初めてのReact Native 個人開発アプリ企画選定			指示に従い、企画案を提出すること		
	10～ 12	第5章 電卓アプリ開発で学ぶFlexboxレイアウト 個人開発アプリ詳細設計(機能設計)					
	13～ 15	第6章 UIライブラリによるTODOアプリの拡張 個人開発アプリ詳細設計(機能アクティビティ図)					
	16～ 18	第7章 React Nativeの状態管理(Flux/Redux) 個人開発アプリ詳細設計(機能シーケンス図)					
	19～ 21	第8章 地図アプリとGPSロガーアプリ制作で学ぶ実践的React Native開発 個人開発アプリ詳細設計(画面設計)					
	22～ 24	第9章 WebViewプログラミング 個人開発アプリ詳細設計(データ設計)					
	25～ 27	第10章 ネイティブモジュールを利用した開発 個人開発アプリ詳細設計(テスト設計)					
	28～ 30	個人開発アプリ詳細設計(テスト設計)			指示に従い、設計ドキュメントを提出すること		
	31～ 33	個人開発アプリ製造					
	34～ 36	個人開発アプリ製造					
	37～ 39	個人開発アプリテスト					
40～ 42	個人開発アプリリリース・web発表			指示に従い、発表用資料を提出すること			
評価方法	(1)作品提出期限・過程を評価する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出状況		◎				40%
	課題・レポート		○		◎		40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	サーバ構築演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	Amazon Web Servicesを使ったクラウド運用でのアプリケーション開発をハンズオン形式で作りながら学ぶ						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				アプリケーション作成のためのクラウド環境の構築ができる	
		○				クラウド環境を利用して初歩的なアプリケーションの作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	AmazonWebServicesアプリ開発運用入門 秀和システム						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1章AWSを使いはじめよう!				AWS educateのアカウントを作成しておくこと(事前指示あり)	
	2	1章AWSを使いはじめよう!					
	3	1章AWSを使いはじめよう!					
	4	2章AWSでソースコードの管理をしよう				GitHubアカウントの準備	
	5	2章AWSでソースコードの管理をしよう					
	6	2章AWSでソースコードの管理をしよう					
	7	3章アプリケーションをAWSで動かそう					
	8	3章アプリケーションをAWSで動かそう					
	9	4章継続的デリバリーを実践しよう					
	10	4章継続的デリバリーを実践しよう					
	11	5章タスク管理機能を作ろう					
	12	5章タスク管理機能を作ろう					
	13	5章タスク管理機能を作ろう					
	14	5章タスク管理機能を作ろう					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・小テストについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	プロジェクト開発演習A						
科目名(英)							
単位数	13単位	時間数	196時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・チームによるアプリケーション開発作業を行い、問題点を適切に対処した「プロジェクト管理」を経験する。 ・ロリポップレンタルサーバーを用いて実際にサービスを公開する ・詳細設計書に基づく開発を経験したのち、設計からの開発を実践する。 ・開発作業の成果物について「ドキュメント・ソース管理」を行う。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
		○				開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
テキスト・教材 参考図書	プロジェクト実行ガイド大全(日経BP社) わかばちゃんと学ぶ Git使い方入門(シーアンドアール研究所) 「プロジェクトマネジメント」実践講座(日本実業出版社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1～7	開発環境構築、PHPの基礎、チーム分け			ロリポップアカウントを作成しておくこと		
	8～14	ドキュメントから開発をおこなう			チームで企画を検討しておくこと		
	15～ 21	ドキュメントから試験をおこなう			チームで企画を検討しておくこと		
	22～ 28	企画選定					
	29～ 35	設計・第一回レビュー					
	36～ 42	テスト設計・最終レビュー					
	43～ 49	開発			以降、毎週金曜日までに進捗レビュー準備をしておくこと		
	50～ 56	開発					
	57～ 63	開発					
	64～ 70	開発					
	71～ 77	テスト					
	78～ 84	テスト					
	85～ 91	発表資料作成					
92～ 98	振り返り・改良・コンテスト準備						
評価方法	(1)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(2)制作過程の進捗状況を評価する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				40%
	成果物提出状況		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語分野:前期は、計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。⇒ 求めた答えと一致する「選択枝」を選択する。SPIテキスト(非言語分野)の未消化分は、後期に継続して行う。 (2)言語分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				非言語分野の計算が基本通りに答えを求めることができる。	
		○				言語分野の練習問題をとくことができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職筆記試験について数学分野(1回目)仕事算					
	2	数学分野(2回目)水槽算					
	3	SPIテキストの構成・内容の確認、国語1(二語の関係①)テキストの数学1の内容確認・練習問題					
	4	国語2(二語の関係②)数学分野(3回目)鶴亀算					
	5	国語3(文法)数学分野(4回目)連立方程式の練習問題					
	6	国語4(語句の意味)数学分野(5回目)濃度算			小テスト範囲の復習をしておくこと		
	7	小テスト(数学1. ~ 数学4-2)					
	8	小テスト 返却&解説 国語5(短文の穴埋め)、数学分野(6回目)損益算			小テストで間違えた問題の復習をしておくこと		
	9	国語6(文章整序)数学分野(7回目)流水算					
	10	国語7(空欄補充)数学分野(8回目)参考問題					
	11	国語8(長文読解)、国語9(参考問題)数学分野(9回目)年齢算					
	12	数学分野(10回目)場合の数					
	13	数学分野(11回目)確率			これまで学んだ範囲を復習しておくこと		
14	数学分野(12回目) 定期試験対策			定期試験対策で整理した内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テスト(小テスト)を1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席状況を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				40%
	小テスト	○	◎				40%
	授業態度など				◎		20%
履修上の注意							

科目名	英語コミュニケーションA						
科目名(英)	English Communication A						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	山下 満里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	未来のITエンジニアが身に付けるべきグローバルコミュニケーションスキルを習得する。毎回Warm Upとして基本文法と基本の発音演習により英語の苦手意識を取り除く。ITエンジニアがよく使う英単語、表現をインプットし、コミュニケーションの相手ごと(顧客、開発パートナー、ハードウェアベンダー、社内)にITビジネス現場で遭遇するシチュエーションでの会話を聞きキーフレーズを使えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本文法を理解し、文章を組み立てることができる	
	○	○	○	○		基本の単語を正しく発音することができる	
	○	○				ITエンジニアがよく使う英単語、表現を使用することができる	
	○	○				相手とシチュエーションごとの会話ができる	
テキスト・教材 参考図書	・ナツメ社 ITエンジニアのための英会話&キーフレーズ ・技術評論社 問題解決力とコーディング力を鍛えるえいごのいろは ・The Japan Times 英語のリスニングは発音力で決まる! UDA式30音練習帳						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	発音演習:口まねトレーニング 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 1 顧客	基本の文法:動詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	2	発音演習:口まねトレーニング 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 2 開発パート	基本の文法:動詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	3	発音演習:子音の強化トレーニング 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 3 ハードウェア	基本の文法:動詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	4	発音演習:子音の強化トレーニング 会話:Part 1 紹介・プレゼンテーション Chapter 4 社内	基本の文法:前置詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	5	発音演習:子音の強化トレーニング 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 1 顧客	基本の文法:前置詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	6	発音演習:子音の強化トレーニング 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 2 開発パートナー	基本の文法:名詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	7	発音演習:子音の強化トレーニング 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 3 ハードウェアベンダー	基本の文法:形容詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	8	発音演習:子音の強化トレーニング 会話:Part 2 検討・決議 Chapter 4 社内	基本の文法:副詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	9	発音演習:母音の強化トレーニング 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 1 顧客	基本の文法:前置詞と副詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	10	発音演習:母音の強化トレーニング 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 2 開発パートナー	基本の文法:接続詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	11	発音演習:母音の強化トレーニング 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 3 ハードウェアベン	基本の文法:接続詞	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	12	発音演習:母音の強化トレーニング 会話:Part 3 交渉・説得 Chapter 4 社内	基本の文法:指定ルール	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	13	発音演習:母音の強化トレーニング 会話:Part 5 対面以外のコミュニケーション形式	基本の文法:説明ルール	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
	14	発音演習:母音の強化トレーニング 会話:Part 5 対面以外のコミュニケーション形式 Chapter	基本の文法:Review	英単語、表現	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)毎回小テストを行う。(3)宿題として自分の発音、会話を録音する。(4)発表をおこなう。 以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	小テスト	○	◎				20%
	宿題・レポート				◎		20%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回以上で定期試験の受験資格が得られる。						

科目名	就職実務 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久家政人		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	次年度就職に向けて、スムーズな就職活動ができるように前期の準備を行う。 業界研究や職種研究を通じて、将来の働くイメージを具体的に描いていく。 企業研究の方法を知り、受験したい企業を選択する。 履歴書(業界・職種志望理由、自己PR他)を作成する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					IT業界の特徴を説明できる	
	○	○				業界と職種の志望理由を述べることができる	
		○				就職採用試験に提出する履歴書が準備できる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職の目的 / 働くこと、社会人基礎力の理解					
	2	業界研究1				課題提出	
	3	業界研究2					
	4	業界研究3				課題提出	
	5	業界研究4					
	6	職種研究				課題提出	
	7	職種研究					
	8	職種研究					
	9	業界・職種志望動機まとめ1				課題提出	
	10	業界・職種志望動機まとめ2					
	11	企業研究1				課題提出	
	12	企業研究2					
	13	履歴書作成1				課題提出	
	14	履歴書作成2				課題提出	
評価方法	(1)適宜レポート課題提出 (2)授業の出席状況・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート課題	◎	○				50%
	出席状況・授業態度				◎		50%
履修上の注意	出席が10回(全14回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ						
科目名(英)	Business CommunicationⅡ						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科3年 情報システム専攻科アドバンス2年						
授業概要	ディベートの基礎知識を習得し、実習を行うことで論理的な討論技法を段階的に身につける。 ①客観的、批判的、多角的な視点が身につく。 ②論理的な思考表現が出来るようになる。 ③自分の考えを筋道を立て、人前で堂々と主張できるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ディベートの手法を理解できる。	
		○				きちんと理由、筋道をつけて自分たちの主張を相手に伝え、納得してもらうことができる。	
テキスト・教材 参考図書	ネコと学ぶディベートの本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 ディベートとは 第2章 ディベートのルール					
	2	第3章 ディベートの基礎					
	3	第4章 立論の作り方					
	4	第5章 反駁の考え方				授業内容に係るレポート作成および提出	
	5	第7章 ディベートを行う準備 第9章 ジャッジ					
	6	①テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	7	①ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	8	②テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	9	②ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	10	③テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	11	③ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	12	④テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	13	④ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	14	まとめ					
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							